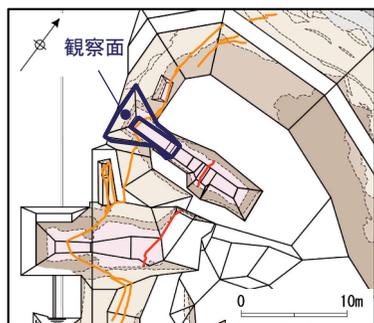
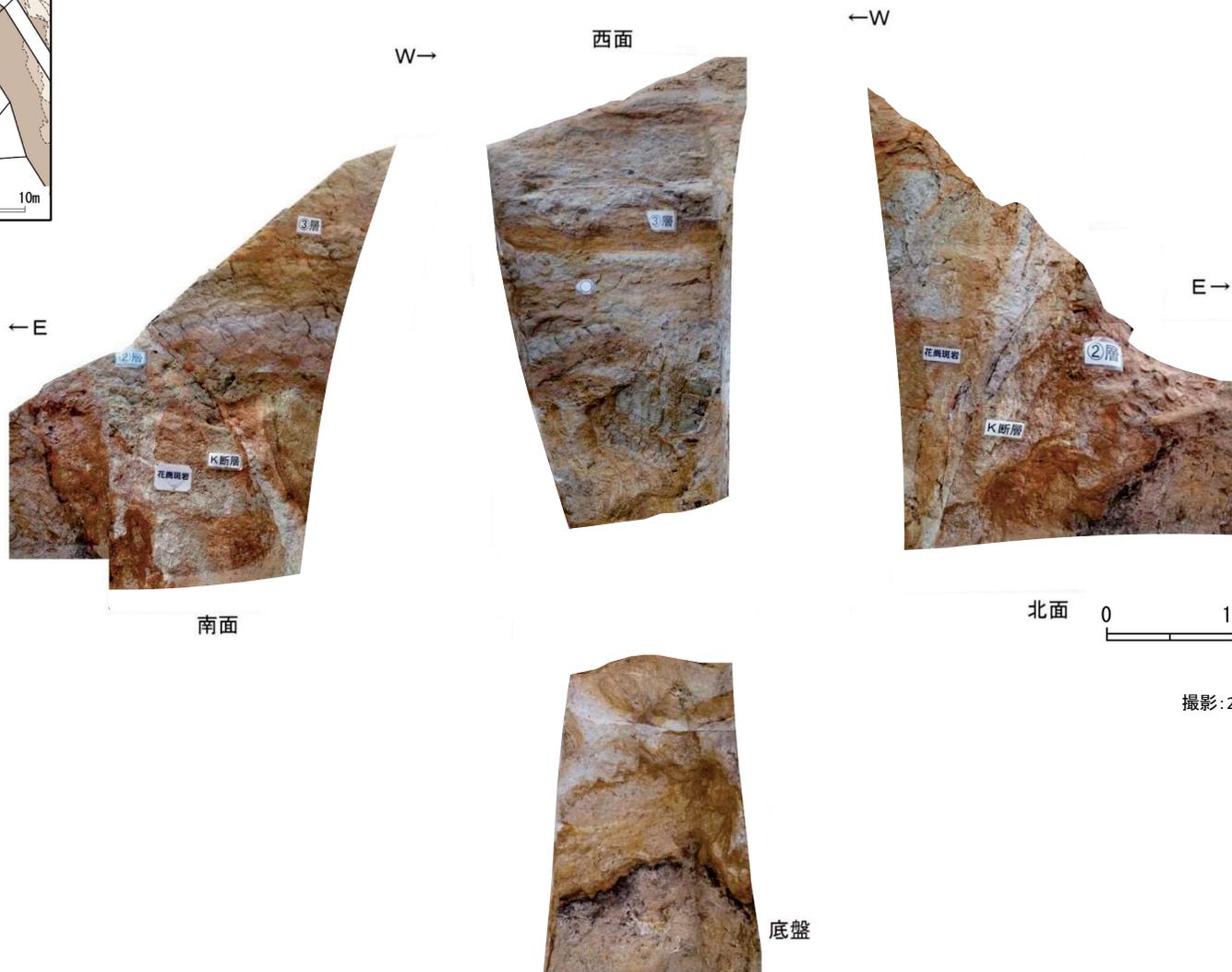


## 2.2.1.4 2-1ピット (2-1ピット 写真)



調査位置図

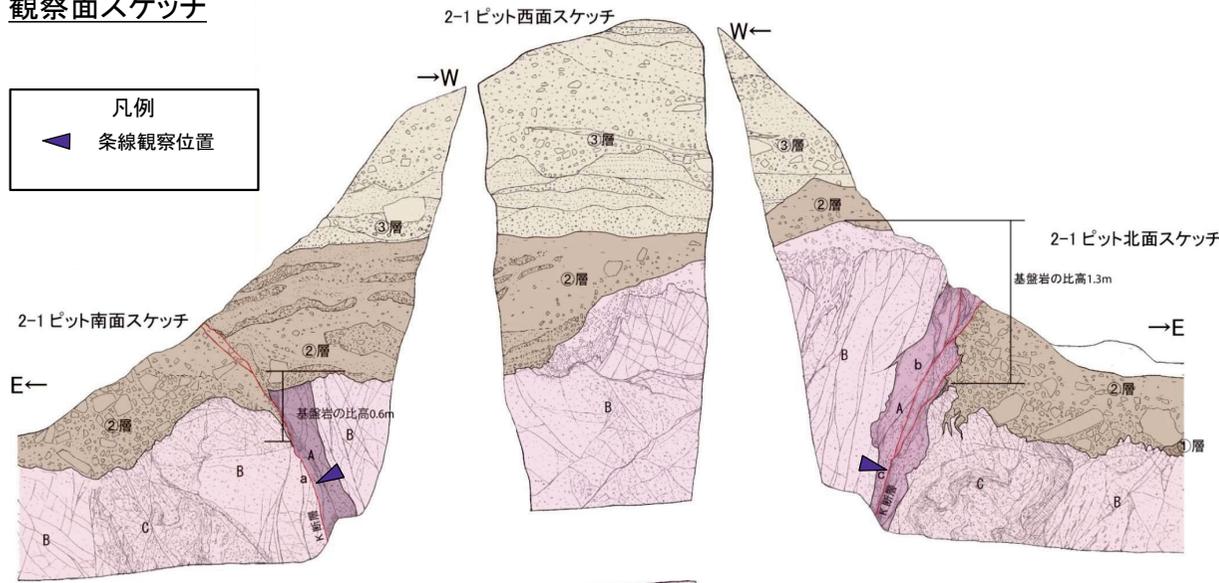


撮影：2013年9月

2-1ピット写真

## 2.2.1.4 2-1ピット (2-1ピット 条線観察結果(その1))

### 観察面スケッチ



条線の例(2-1ピット北面)※  
N9W64W, 80R (平均値)

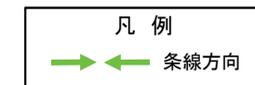


条線の例(2-1ピット南面)※  
N3W59W, 82R (平均値)

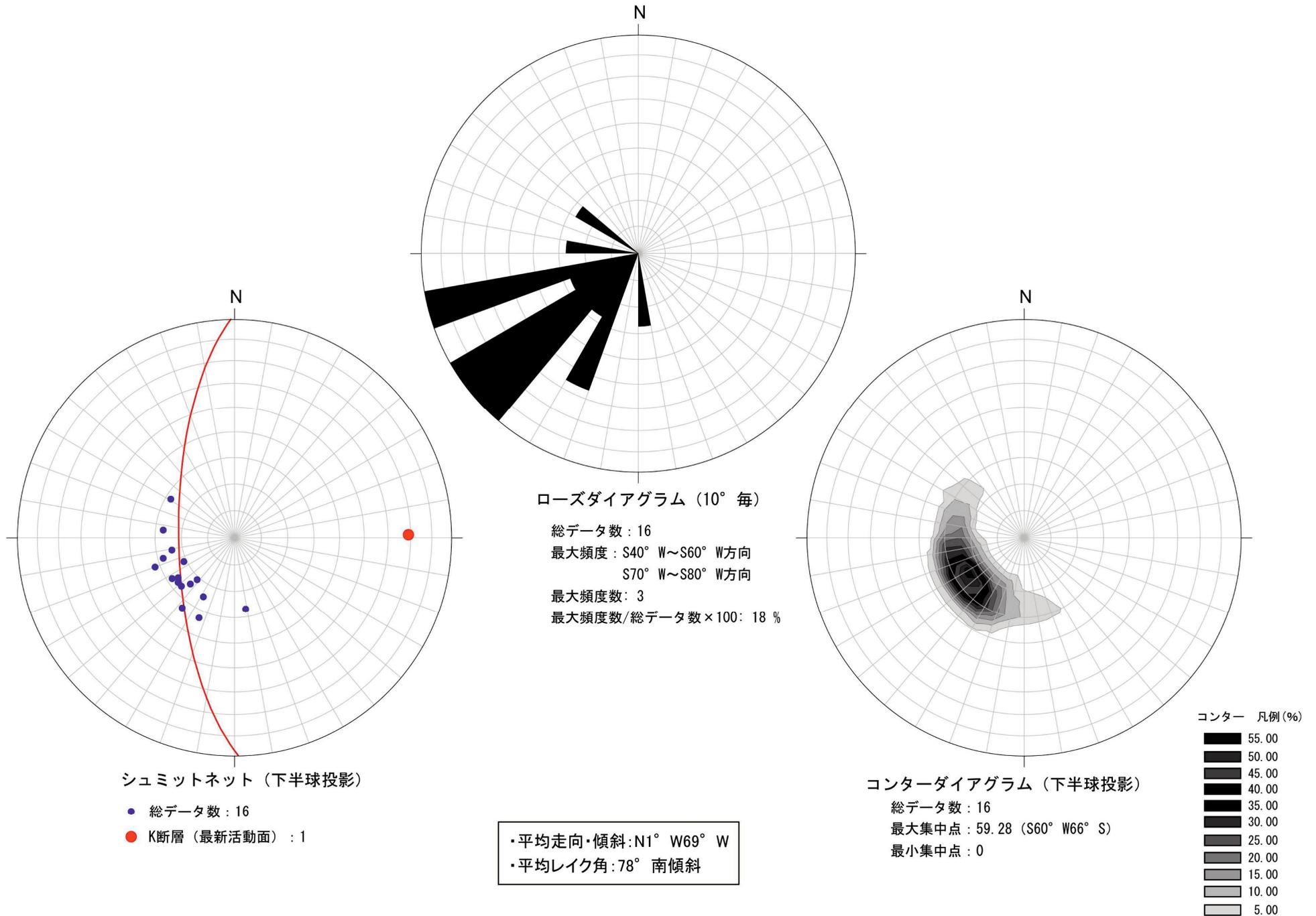


条線の例(2-1ピット底盤)※  
N5E64W, 77L (平均値)

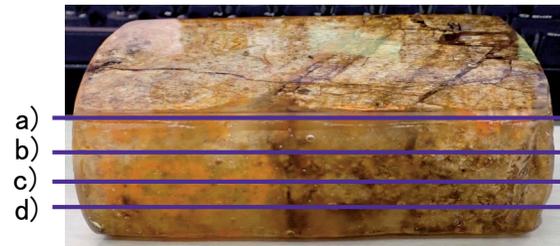
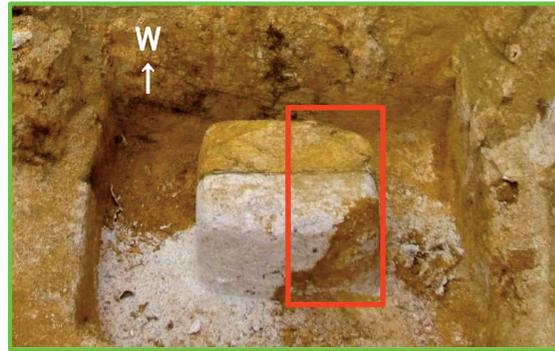
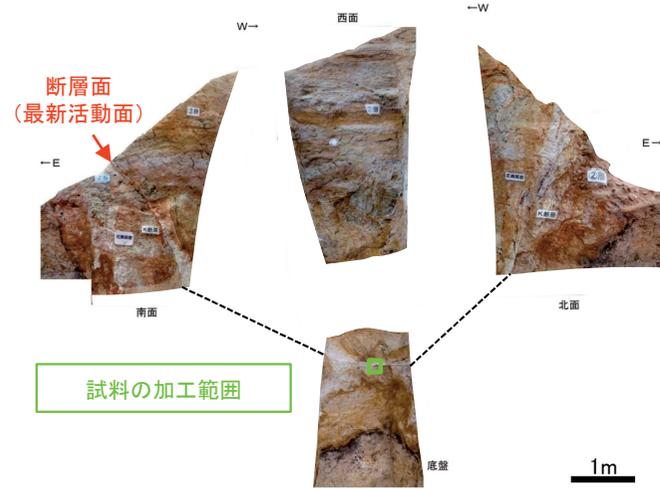
※上盤側から観察



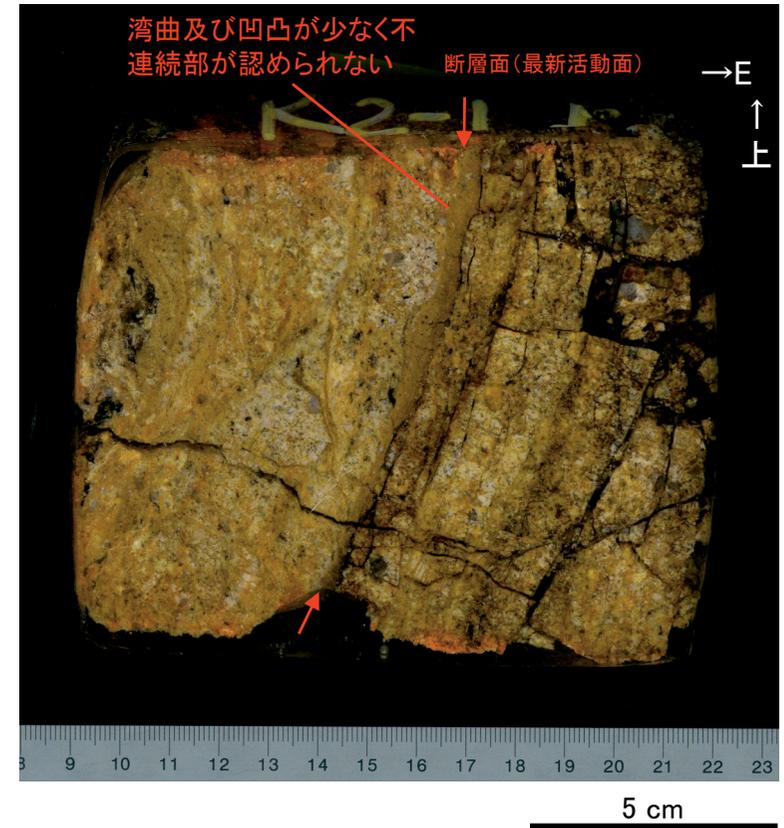
## 2.2.1.4 2-1ピット (2-1ピット 条線観察結果(その2))



## 2.2.1.4 2-1ピット (2-1ピット ブロックサンプル及びCT画像)

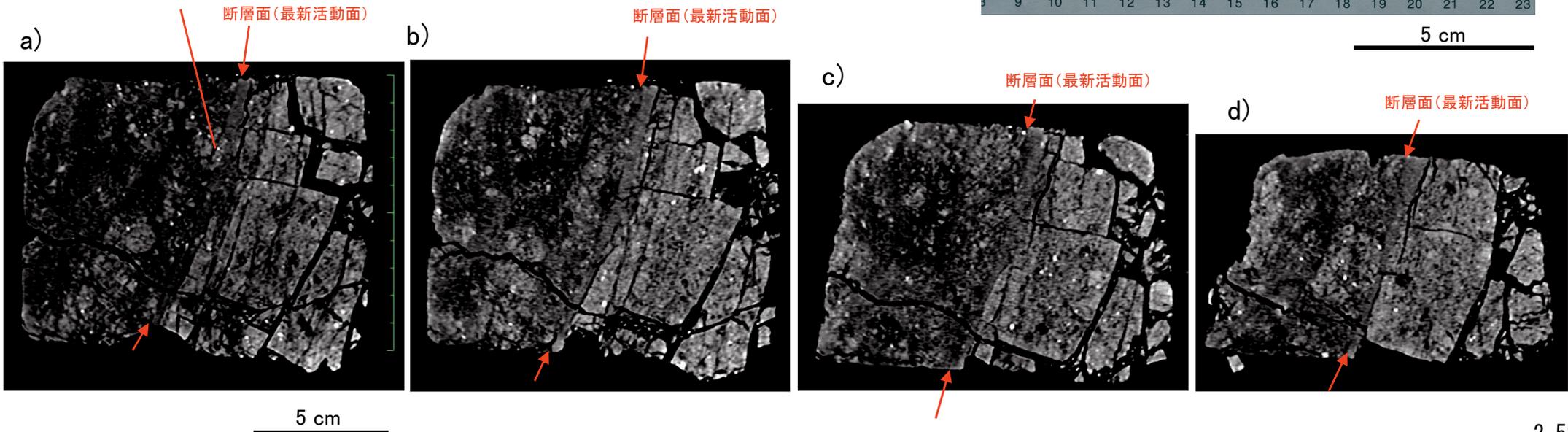


### 研磨片写真



### 研磨片CT画像

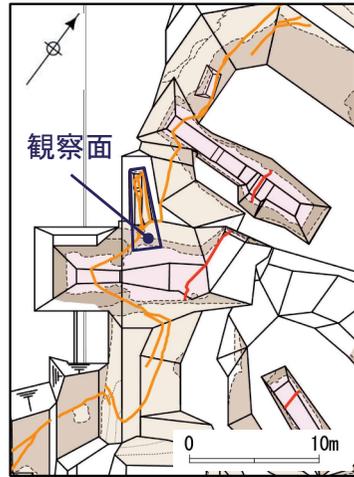
湾曲及び凹凸が少なく、不連続部が認められない



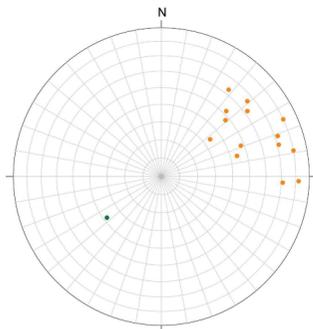
## 2.2.5 西側ピット

## 2.2.1.5 西側ピット（西側ピット スケッチ）

- D-1トレンチ西側ピットの北部拡幅部では、K断層は③層を変位させ、ピット内においてN-S~NNW-SSE方向の断層に屈曲して走向を変えている。
- 屈曲部から南方へ分岐するN-S方向の断層は、③層に変位・変形を与えていない。



調査位置図



シュミットネット (下半球投影)  
● せん断面 (K断層) : 16  
● 層理面 : 1

盛土：灰黄褐色～灰白色 (10YR6/2～10YR8/1)  
表層10cmが有機質であり、緩い。

③層：砂礫、シルト薄層互層：浅黄橙色～灰白色 (10YR8/3～10YR8/1)、酸化部は橙黄色 (7.5YR8/8) を呈する。砂礫主体であり、部分的に層理面が認められ、よく締まる。礫率は10～30%で、礫は径15cm以下の亜角礫が多く、礫径最大50cm。淘汰は悪い。基質はシルト混じり砂である。礫層から礫混じり砂層、中～粗粒砂層へと漸移する。薄層状～レンズ状のシルト、シルト質細粒砂やブロック状の礫混じりシルトを伴う。

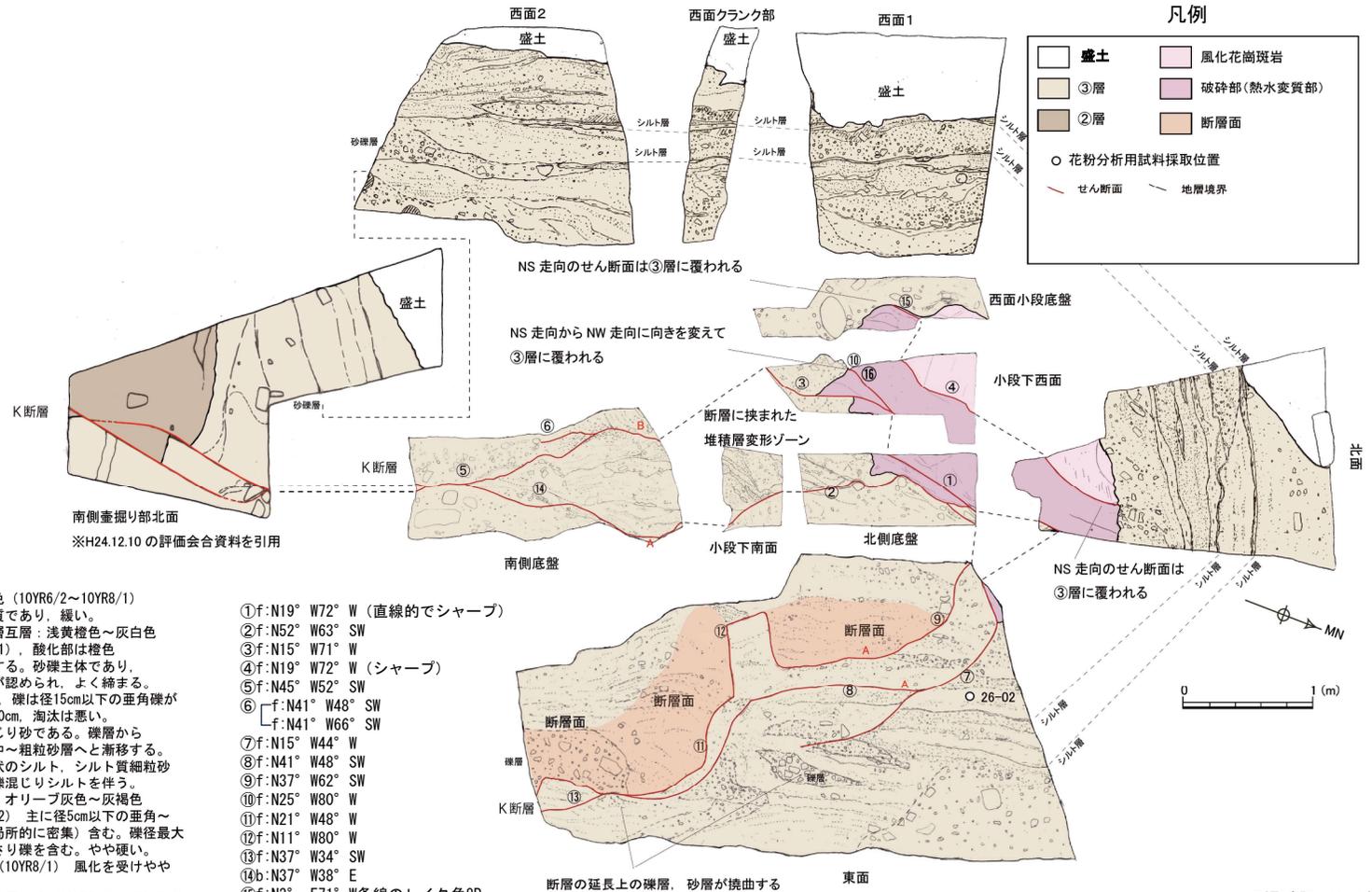
②層：礫混じりシルト：オリーブ灰色～灰褐色 (2.5GY6/1～5YR6/2) 主に径5cm以下の亜角礫を5～10% (局所的に密集) 含む。礫径最大15cmである。くさり礫を含む。やや硬い。

風化花崗斑岩：灰白色 (10YR8/1) 風化を受けやや軟質である。

破砕部 (熱水変質部)：灰白色 (10YR8/1) 細礫混じりシルト質砂状である。原岩組織は殆ど残存していない。

- ①f: N19° W72° W (直線的でシャープ)  
②f: N52° W63° SW  
③f: N15° W71° W  
④f: N19° W72° W (シャープ)  
⑤f: N45° W52° SW  
⑥ f: N41° W48° SW  
f: N41° W66° SW  
⑦f: N15° W44° W  
⑧f: N41° W48° SW  
⑨f: N37° W62° SW  
⑩f: N25° W80° W  
⑪f: N21° W48° W  
⑫f: N11° W80° W  
⑬f: N37° W34° SW  
⑭b: N37° W38° E  
⑮f: N3° E71° W条線のレイク角8R  
⑯f: N2° E82° W条線のレイク角5L

f: せん断面  
b: 層理面



現場確認: 2013年11月

## 2.2.6 1-1ビット